

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** 佐伯恒夫氏の木星スケッチ**

佐伯恒夫氏の名前は天文普及書では著名な人なので、氏の名前を知る人は多いと思う。氏は独学で天文学を学んだ人で火星の観測では世界的に知られた人である。火星のクレーターに日本人の名前としては初めての「Saheki」が命名されており、アメリカの天文雑誌「Sky & Telescope」2005年12月号に、佐伯恒夫氏の功績を、50年の長年にわたる火星の観測で、世界的に知られる大シルチスの西に小さな明るい領域を発見したこと、火星の閃光（せんこう）現象の観測を紹介した記事がある。また氏は、著書やテレビ・ラジオなどを通じて天文学の普及に尽力し、東亜天文学会、日本暦学会の会長も務めたアマチュア天文の世界では著名な人である。この度、佐藤明達氏から、氏の木星のスケッチ図（写真1）の入った絵葉書の便りをいただいたのでこれを紹介したい。

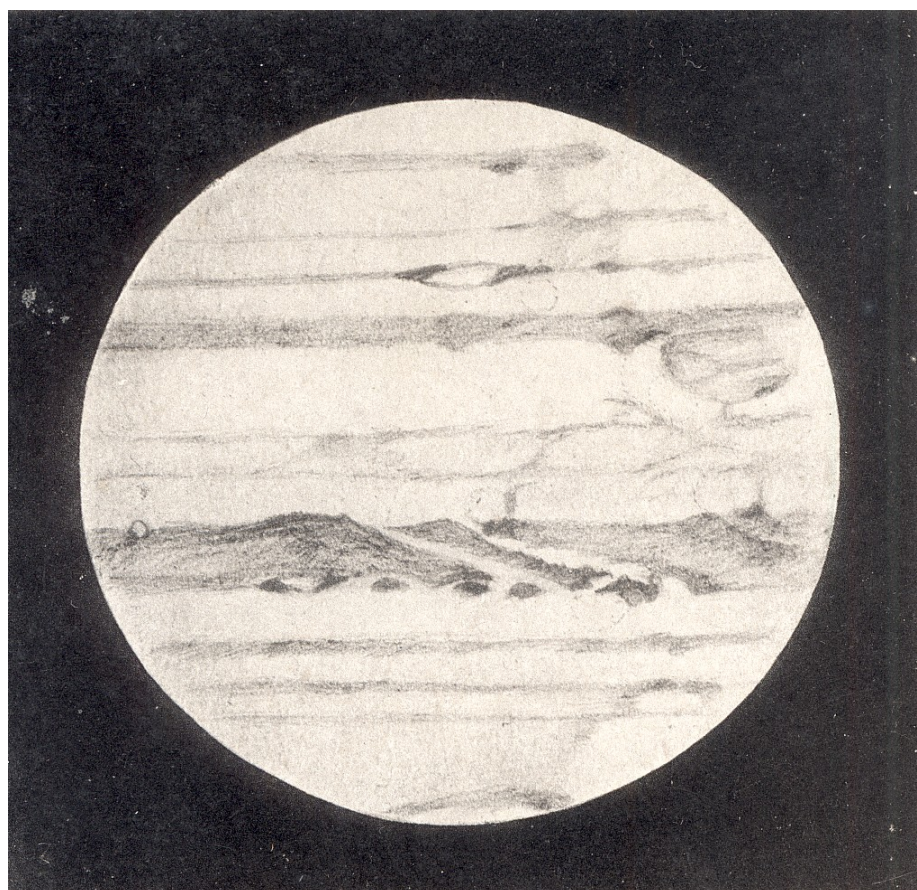


写真1 1938年7月2日の佐伯恒夫氏の木星のスケッチ図

筆者は、東京天文台に入った頃、天文の啓蒙書を手当たり次第読んでいたので、佐伯恒夫氏の名前はよく知っていた。今回、氏の木星のスケッチ図の絵葉書で便りをくださった

佐藤氏も、このスケッチ自体が貴重なドキュメントであると書かれていた。

筆者がその建設に力をつくしたハワイに建設した大型光学赤外線望遠鏡「すばる」の完成時の試験観測で得られた木星の写真（写真2）に比べてその詳細さは勝るとも劣らないものがある。

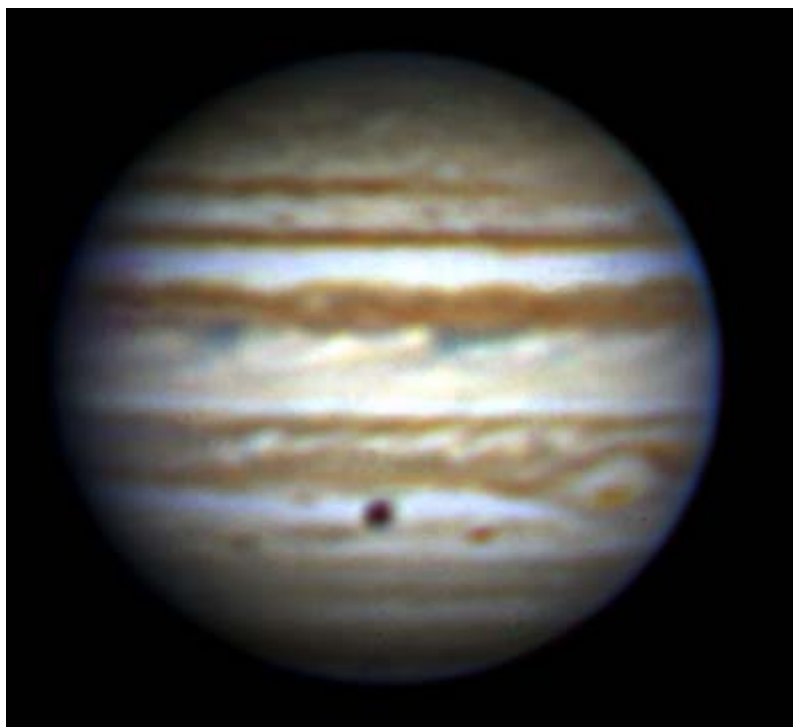


写真2 すばるの試験観測の木星像

しかし我々は、探査機による木星近傍から撮影された写真を見慣れている。写真3はNASAが1989年に打ち上げた探査機ガリレオによって撮影された木星像である。佐伯氏のスケッチの素晴らしさがこの写真と比べても見劣りがしないと思うのは筆者だけであろうか。



写真3 NASAの探査機ガリレオによる木星象